

# 小学校ベースボール型授業事例の批判的検討 —対案としてのバランスボール・ベースボール—

森 勇示

愛知教育大学保健体育講座

## A critical examination of striking/fielding type games in the cases of elementary Physical education. — Balance Ball Baseball as the Counterproposal —

Yuji MORI

Aichi University of Education, Department of Health and Physical Education

キーワード：ベースボール型 攻防の定義 連係

Key Words : striking/fielding type games, definition of the offense and defense, team work.

### 1. 問題と目的

ベースボール型の授業は難しいとのコメントを現職教員からしばしば聞く。その理由には「打てない、捕れない、投げられない子がいる。」「止まっている時間が長く、体育としては運動量が少ない。」などがある。

「ベースボール型」の学習は「ベースボール」の学習ではないので、ベースボールに固有の技能習得は目的ではない。この技能はゲームの手段になり、その使用はゲーム状況に応じた判断をとまなう必要がある。正規のベースボール（ソフトボール）のように、ピッチャーの投げるボールを打つゲームなら、打球が生じるまで守備側は止まっているので、体育として運動量が少なくなることは必然である。同様に、9人1チームでゲームを行うと、打順が回ってくるまでに8人を待つので、これも運動量が少なくなる。

このような難しさの問題を解決しようと、種々工夫がみられる<sup>1) - 20)</sup>。小学校学習指導要領解説（以下「指導要領」）によれば、ベースボール型は「簡易化されたゲームで、ボールを打ち返す攻撃や隊形をとった守備によって、攻防をすること。」を学習するとある。したがって、工夫とはゲームの「簡易化」にあり、「攻防すること」が中心的な学習課題になると考えられる。しかも、その攻

防は「ボールを打ち返す攻撃」と「隊形をとった守備」と対置されている。そのため、この対置条件にも工夫の余地が考えられる。ところが、工夫のあまりベースボール型の中心的な学習課題を逸脱している授業を散見する。これが本稿の問題意識にある。

この問題に対して、①ベースボール型が「何による」攻防なのかを検討、定義し、その定義に基づいて、②学習課題を損ねている種々の工夫例を指摘し、③その対案としての「バランスボール・ベースボール」を提示する。以上3つが本研究の目的である。

### 2. ベースボール型は「何による」攻防なのか

ベースボール型の攻防を定義するために、検討する範囲を限定しておきたい。本稿は小学校体育ボール運動領域の学習内容を問題としている。そのため、指導要領をふまえた体育の内容という視点が中心になる。

体育の内容は、一般的にその多くが一般的なスポーツを教材化している。そのうち指導要領ではボール運動領域の内容を3つの「型」で区分している。そして、具体的な解説を低中高学年ごとに例示している。そこでこの3つの視点（スポーツ・型・例示）を検討の範囲とし、以下の過程をふまえて検討することとしたい。

- ・このゲームの一般的なスポーツでの競争場面を考え、「何による」攻防なのかを区分する。
- ・他の「型」との相違点を考え、もっとも中心的な攻防は「何による」のかを定める。
- ・指導要領の例示をふまえ、「何による」攻防なのかを定義する。

### 2-1. 一般的なスポーツとしての攻防

スポーツとしてのベースボール型を考えると、野球やソフトボールが広く知られている。これらの競争場面は一連のプレイにある。それは、投球・打撃・捕球・送球・走塁である。これを「何による」攻防なのかという視点で区分してみると次の3つの攻防が考えられる。

「投球対打撃」による攻防、「打撃対捕球」による攻防、「送球対走塁」による攻防。

これら3つのすべてが欠けた場合、競争場面はなくなり攻防にならないが、1つでも含まれれば、それはベースボール型の競争の一部になる。

### 2-2. 3つの「型」の相違点

3つの「型」の違いを考えると、指導要領では学習内容として区分されている。各型の学習内容は何か、型の区分は種目による区分ではないので、種目固有の内容は中心的な学習内容ではないことが分かる。

1990年代前半から、球技領域で戦術学習が目ざされ始めた。それと連動するかのよう指導要領でボール運動・球技領域の内容が「型」として示されたことを考えると、「型」の学習の中心は戦術的な競争にあると言えよう。戦術的な競争はゲームに現れ、すべてのゲームは得点競争である。したがって、各型の差異はこの得点ケースにあると考えることができる。各型の得点ケースは次のように表すことができる。

ゴール型：ゴールにボールが入ることで得点となる。

ネット型：ボール処理をミスさせ、相手コートに返球させないことで得点となる。

ベースボール型：走者が進塁し、本塁まで達したことで得点となる。

この領域の競争が得点を競うゲームである以

上、もっとも中心的な攻防は「得点とその阻止」になる。したがって、ベースボール型の場合、もっとも中心的な攻防は「本塁への進塁とその阻止」になると考えることができる。

### 2-3. 指導要領の例示

小学校学習指導要領解説のベースボール型の例示を見ると、以下のよう記されている。

中学年

(ア) ボールを蹴る、打つなどにより攻撃をしたり、捕る、投げるなどにより守備をしたりして、攻守を交代するゲームをする。

(イ) 全力で走塁し、得点がとれるようなゲームをする。

高学年

(ア) 止まったボールや易しく投げられたボールを打ったり走塁をしたりして攻撃し、また、それを阻止するために捕球したり送球したりして、攻守を交代するゲームができるようにする。

(イ) 得点をとるための出塁と進塁ができ、また、チームとして守備の隊形をとってアウトにする（進塁を防ぎ、得点を与えないようにする）動きができるようにする。

中高学年とも (ア) (イ) と2項目で例示され、(ア) ではボール処理が中心に、(イ) では走塁が中心に記されている。この中で、打撃・捕球・送球のボール処理と走塁が中高学年に共通している。打撃について、中学年で「ボールを蹴る、打つなどにより」と記されているので、バットなどによる打撃に限る必要がないと解釈できる。守備隊形・進塁阻止などの守備の戦術的な内容は高学年のみに見られる。また、高学年に「止まったボールや易しく投げられたボール」を打つ記載があるので、一般的なスポーツとしての「投球対打撃」の攻防は省略する主旨が含まれていると解釈できる。

### 2-4. ベースボール型の攻防の定義

2-1項で、攻防には「投球対打撃」「打撃対捕球」「送球対走塁」の3つがあると考えたが、2-3項で「投球対打撃」は省略する主旨があることが分かっ



### 3-2. 連係が学べないゲーム

図2は4年生ティーボールの事例<sup>18)</sup>である。

このゲームでは、個人個人が1回の打撃で右翼線上に配置されたコーンを回ることで得点になる。長打になれば、より多くのコーン、より多くの周回によって、より多くの得点が期待される。味方走者が塁に残ることがないので、連係による進塁はない。守備側にとっても打者個人に備える隊形は考えられるが、進塁を阻止する連係はない。

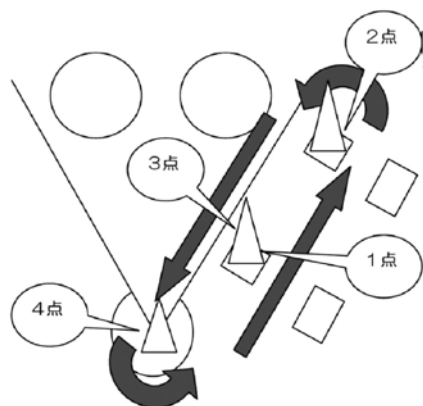


図2 打者走者の進塁だけが点になるルール

他の事例<sup>11) 13) 17) 19) 20)</sup>にも同様に、打者走者の進塁だけで得点になるゲームが含まれる。このようなゲームは長打力、走力のある子が高得点を取りやすくなる。そのため、個人の能力を競う性格が強くなり、長打ができない子にとって劣等感が生じる懸念がある。

指導要領中学年の例示に「連係」に関する記載はなく、ベースボール型の導入としては、このようなゲームでいいかもしれないが、「連係」を学ぶ機会はないので、このゲームを繰り返していても戦術的な深まりは期待できない。

### 3-3. 競争の根本を損なうルール改定

図3は中学年の「アウトの方法の工夫例」として示されている<sup>10)</sup>。これは「ならびっこベースボール」などの呼称で広く知られている。

このルールは、守備側のボール操作の難しさが送球・捕球の難しさにあることを考慮してのルール改定と考えられる。打球を止めた後、守備側の子どもたちが並ぶ・集まることでアウトにする方



図3 アウトの方法の工夫例

法なので送球と捕球の連係はない。ベースボール型の競争場面に「走塁対整列(集合)」はなく、ボール処理の難しさを考慮したとしても、この型の競争の根本が変わってしまっている。

ベースボール型の場合、1つの打球に対する守備側の役割には、「打球処理」「ベースカバー」「バックアップ」などがある。このことを考えると、1つの打球に対して守備者全員が同じ地点に集結するようでは、役割は分担されず、守備の戦術的気づきを損なう工夫例になっていると言えよう。

## 4. 対案としてのバランスボール・ベースボール

前項では、①技能習熟偏重②連係の機会がない③競争の根本を損なう、3つの批判事例を指摘した。ここで上記3点を克服するために考案した「バランスボール・ベースボール」を対案として提示する。

「バランスボール・ベースボール」はバランスボールをバットで打ち、出塁する。塁上の味方を進塁させ、ホームインして得点となる。アウトにする方法は通常のベースボールと同様、フォースアウトかタッチアウトである。このゲームを筆者が試行的に行った。対象は愛知県A小学校1年生の体育授業である。使用した用具と主なルールは以下の通りである。

#### 【使用した用具】

- ・バランスボール (65cm 900g)
- ・Tボール用バット (58cm 420g 最大径8.5cm)
- ・輪 (ベース替わり 外径65cmの体操用フープ)

#### 【おもなルール】

- ・3人対3人のゲーム
- ・1-3塁の三角ベース
- ・3打席で攻守交代

この実践は体育館で行い、1・3塁線のフェウルラインは球技のコートのラインをそのまま使用

している。バランスボールの打球は飛距離が出にくく、長打でも5、6mで捕球される。そのため1-本塁間、3-本塁間は5、6mで済み、球技のコートにコーナーが4箇所あれば4コートできる。コートの略図を図4に示す。

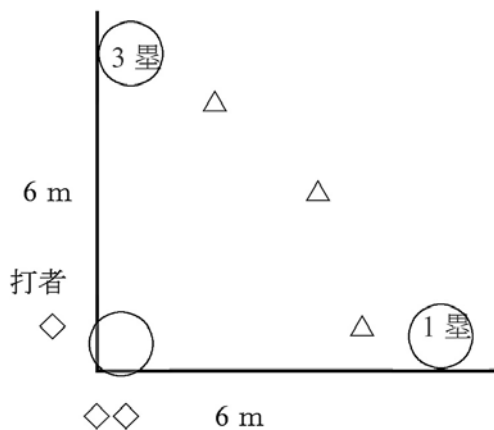


図4 コートの略図

ゲームの具体を写真1、2に示す。

バランスボールを空振りする打者はなく、落球・後逸などのエラーをする守備者もない。その点で、「技能習熟偏重」の授業は回避できる。ほとんどの1年生はベースボール型を未経験だが、「1塁から左回りで走ること」と送球によってアウトにする方法、得点になるケースを説明し、すぐにゲームに入ることができた。しばらくゲームを続けていると「タッチアウトもいいですか。」との質問が子どもからあり、承認した。



写真1 最初の打者に対して守る3人の守備隊形

写真2の通り、2人の送・捕球で連携し、3塁でフォースアウトを取っているのが、守備側の連携が見られる。3打席交替のため、ゲームのインニング数は1授業でも多くなる。そのため、ゲームを



写真2 3塁への送球で7番をフォースアウトにする繰り返すことで進塁打をねらう攻撃の連係に気づくことは充分予想される。したがって、連係の機会は攻守とも頻繁に生じる可能性があるゲームとして期待できる。

このゲームを本稿の定義「集団の連係による『本塁へ進塁するための打撃・走塁』対『それを阻止する捕球・送球』の攻防」として見た場合、完全な定義通りの条件を備えている。したがって、競争の根本も損ねていないことが分かる。

指導要領では低学年にベースボール型はない。しかし、この授業を実践した1学年の学級では、1時間目のゲームから、どの子も打撃・捕球・送球・走塁ができ、守備側の連係が出現していた。その点で、「バランスボール・ベースボール」は低学年からベースボール型の学習を保障する教材だと考えることができる。

思い通りにボール・バット操作ができなければ作戦遂行もままならない。そのため技能習熟の時間は必要だと考える教師は少なくない。筆者も全くボール・バット操作ができなければ攻防に参加できず何も学べないと思っている。それでも「連係による進塁とその阻止」が学べなければ、ベースボール型を学習したことにはならないと考える。体育授業において、安易に工夫さえすればいいというのではなく、「型」の定義をすることで、「何を学ぶのか」を自覚した上で単元計画を立案したいものである。

## 5. 参考引用

- 1) 土田了輔：ベースボール型ゲームを面白くするルールの工夫を考える, 体育科教育59 (5): pp.15-19, 2011

- 2) 大友宏幸：走者と守備の対決場面に焦点を当てた5年生のハンドベースボール，体育科教育59（5）：pp.20-25，2011
- 3) 垣内幸太：攻撃側のバッティングと走塁のおもしろさを味わわせる教材継投を提案する，体育科教育59（5）：pp.30-35，2011
- 4) 松田恵示：ベースボール型ゲームを生涯スポーツにつなぐために，体育科教育第61（10）：pp.10-13，2013
- 5) 清水 将，浜上洋平，中嶋基樹：守備側の判断と投能力の向上を企図した連携バックホームベースボール：体育科教育61（10）：pp.18-21，2013
- 6) 梅井大輔，光本 允：動いているボールを打つ学習指導に焦点を当てた授業計画とその実践，体育科教育61（10）：pp.22-25，2013
- 7) 古川勝哉：初めてベースボール型を学ぶ小学校3年生のための授業計画，体育科教育61（10）：pp.26-29，2013
- 8) 石塚論：伝承遊び「ろくむし」を通して学ぶベースボール型の構造，体育科教育61（10）：pp.30-33，2013
- 9) 幸坂 浩：相手に得点させないことを核にした授業展開の可能性を探る：体育科教育61（10）：pp.34-37，2013
- 10) 文部科学省：小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック，pp.46-47，2011
- 11) 茨城県教育長保健体育課：体育授業のモデル集（その3），pp.1-77，2009
- 12) 鹿児島大学附属小学校指導案：ルールを工夫したティーボール，2010
- 13) 新潟市立総合教育センター：授業に役立つ指導案の広場，2013
- 14) 山梨県教育委員会：教育課程指導資料，pp.1-8，2014
- 15) 吉永武史：新学習指導要領に置けるボール運動の指導（3）－ベースボール型の授業づくり－：小学校体育ジャーナル63，pp.1-5，2010
- 16) 千葉県教育委員会：学校体育指導資料第35集（小学校編）新しい体育の展開：pp.20-27，2010
- 17) 青森県総合学校教育センター：2009年研究報告：2010
- 18) 川崎市小学校体育研究会：研究資料学習指導案：pp.1-13，2012
- 19) 白井市教育センター：指導案書庫：2012
- 20) 仙台市教育センター：指導資料指導案：2013

## 6. 謝 辞

授業実践を快く承諾してくれたA小学校の校長先生と1学年の担任の先生にこの場を借りて感謝します。